



# 北の森林<sup>も</sup> 国有林<sup>り</sup>



## 今月のトピック

- ・ 民有林支援・連携を目指した研修の開催
- ・ 台風等に伴う北海道内の林地被害

## 台風による風倒被害

(二海郡八雲町(ドローン撮影))



国民の森林・国有林

北海道森林管理局

# 民有林支援・連携を目指した研修の開催

## 「市町村林務行政への技術的支援」



(総務課)

林野庁北海道森林管理局では初めての取り組みとして森林管理局で開催する研修のうち技術的な内容のコースの一部について、民有林支援・連携に資する観点から、市町村の林業担当職員も対象とした研修を開催しました。

9月13日から15日の3日間、北海道森林管理局研修所及び石狩森林管理署管内の北広島市において、国有林職員21名と市町村職員8名（愛別町、標茶町、積丹町、当別町、根室市、浜中町、幌加内町、増毛町）が合同で「主な樹木とその生育環境」や「樹種毎の林種や林の混み具合等を把握する地況・林況調査」について学びました。

北海道森林管理局では、北海道の林業・木材産業の持続的な発展のため、今後も民有林行政のニーズにあった研修を進めて参ります。



# 台風等に伴う北海道内の林地被害

8月に相次いで発生した台風7号、11号、9号は、それぞれ8月17日、21日、23日に北海道に上陸しました。

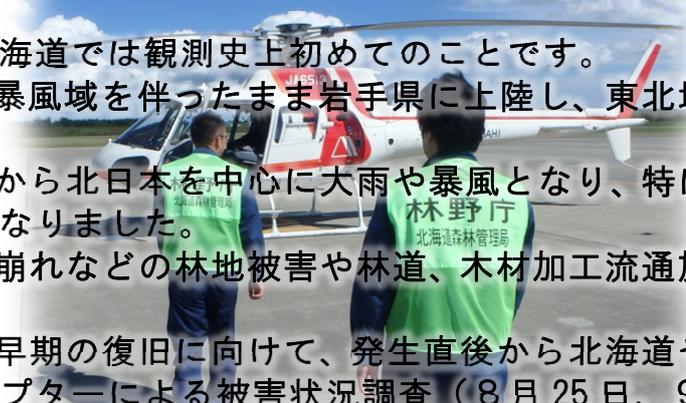
1年に台風が3回上陸するのは北海道では観測史上初めてのことです。

また、台風10号は、8月30日に暴風域を伴ったまま岩手県に上陸し、東北地方を通過して日本海に抜けました。

これらの台風等の影響で、東日本から北日本を中心に大雨や暴風となり、特に北海道と岩手県では、記録的な大雨となりました。

今回の台風等による被害では、山崩れなどの林地被害や林道、木材加工流通施設等の被害が発生しました。

林野庁では、これら被害の把握と早期の復旧に向けて、発生直後から北海道や森林総合研究所などと協力し、ヘリコプターによる被害状況調査（8月25日、9月3日、7日、11日、12日、13日）や現地調査を行うとともに、被災した治山・林道施設等の復旧に向け取り組んでいます。



## 林野関係被害状況



北見市留辺蘂



白糠町



南富良野町



壮瞥町



新得町

## 支援活動



南富良野町では、川の氾濫により牧場につながる道路が数カ所で損壊しました。

牧場の牛約900頭が孤立したことから、上川南部森林管理署では、牛を救出すべく牧場に隣接する国有林を牛の緊急避難路として供し、孤立した牧場へのアクセスの確保に貢献しました。



日高町千栄地区では、国道の橋の崩落により日高地区と千栄地区が寸断され、住民が孤立状態となりました。日高町と日高北部森林管理署が調整し、国有林の林道を緊急避難路等として活用することとし、被災した箇所を補修し当面の生活道路等として使用することとしました。

# 日高南部地域の林業の活性化

地域課題の解決に向けた取組

## に向けた取組

## 日高南部森林管理署

当署では、以前から多くの地域課題に取組んでまいりました。その代表例が、えりも岬の緑化事業です。えりも砂漠と称された強風地区（風速10m以上の日が年間270日以上）で飛砂に苦しむ住民との60年にも渡る緑化活動（木本緑化）が成果を上げつつあります。



【えりも岬】

まず、飛砂の防止はもちろんですが、以前は砂で濁っていた海岸が透明になり、海に魚が戻って来ており、漁獲高が緑化着手前と比較し6倍にもなったとのこと

で、地域に与えた効果は想像以上のものとなっているようです。えりも緑化事業は、今後も地域住民と共に活動を展開していくこととしていきます。

もう一つ重要な地域課題として民有林・国有林が一体となった人工林資源の活用があります。

当署管内の主な産業は、軽種馬生産・漁業・農業で、林業・林産業は産業構造の変化等で衰退の一途をたどってきました。そのような中でも管内人工林（約4万ヘクタール、民有林67%、国有林33%）は、成熟期を迎えています。

その人工林資源を有効に活用すべく積極的に関係行政機関と連携を図り取組目標を設定し、現地施業検討会や意見交換会を開催しています。

○搬出間伐・列状間伐の推進  
日高管内の一般民有林の

森林整備（平成27年度公共補助事業）での除間伐を見ると、搬出に取組んだ面積は全体の2割に止まり資源の有効活用が十分図られておらず、列状間伐に至っては1割に止まっています。



【森林組合との意見交換】

このため、森林組合への支援を目的に意見交換を行った結果、「搬出間伐の推進には、森林所有者に団地化による施業集約と作業効率の良い路網配置等の理解が得られるれよう、メリットの周知や取組事例を地域に広げることが必要不可欠」

この結論になりました。これを受けて、10月に国有林の取組事例も参考に、搬出間伐等が森林所有者に受け入れられることを目指した検討会を行う予定です。

○木質バイオマス資源の供給  
昨年11月、様似町にバイオマス発電用チップの生産工場が完成し本稼働しています。



【木質バイオマス：未利用資源】

当署では、木質バイオマス資源の安定供給の取組として、昨年からは林地未利用材の情報発信と販売を行っ

ており、本年は、立木・素材システム販売、初回間伐を中心とした木質バイオマス資源としての利用を視野に入れた搬出可能なまとまりのある間伐箇所の掘り起こし等の取組を行っています。

なお、同工場を運営するひだか南森林組合では、間伐作業時に末木枝条等を素材と一体的に集荷することを前提とした作業仕組みの導入により、同工場で使用する原料の3割は末木枝条等となっています。このような取組が全道に広まることを期待しています。

このほかにも、GPSの活用等により民・国有林共通の図面を作成するための研修を通じ、民有林と国有林が効率的な路網整備や間伐等の森林整備の推進に向けて連携を図り、地域課題の解決に向けて取組むこととしています。

# センター通信

常呂川森林ふれあい推進センター

ロープで示した区域の木の枝等に10個程度設置した人工物を見つかる「カモフラージュ」を行い、終えたら、自然界で



【カモフラージュ】  
あっ、おれ見つけた！

【アイスブレイク】  
スタッフも含め全員で楽しいゲームを取り入れながら自己紹介をします。

今年度行ったプログラムは次のとおりです。

【アイスブレイク】  
スタッフも含め全員で楽しいゲームを取り入れながら自己紹介をします。

常呂川森林ふれあい推進センターです。今回は、当センターで取り組んでいる森林環境教育の一つである「オホーツクの森こども探検隊」を紹介します。

常呂川森林ふれあい推進センターです。今回は、当センターで取り組んでいる森林環境教育の一つである「オホーツクの森こども探検隊」を紹介します。

【合い言葉】  
子供たちはトランシーバーで隊長（センター所

【合い言葉】  
子供たちはトランシーバーで隊長（センター所

【マッチ棒クイズ】  
マッチ棒を利用してクイズを出し、全員で考えます。時間を見てヒントを出します。

【マッチ棒クイズ】  
マッチ棒を利用してクイズを出し、全員で考えます。時間を見てヒントを出します。



【ジャンケン】  
番人さん、早く負けてよ！

【ジャンケン橋渡り】  
橋の手前でジャンケンをし、勝った人だけを通します。全員がクリアしなければなりません。

【ジャンケン橋渡り】  
橋の手前でジャンケンをし、勝った人だけを通します。全員がクリアしなければなりません。

また、コースの中でカードに書かれた「白い花」「きのこ」等を見つけて「フィールドビンゴ」は、班全員で協力してクリアします。

また、コースの中でカードに書かれた「白い花」「きのこ」等を見つけて「フィールドビンゴ」は、班全員で協力してクリアします。

【動物探し】  
7枚のプレートにそれぞれ動物を1〜7匹と、ひらがなの一文字を書き、コースの沢向かいの木に取り付けてあります。子供たちに、双眼鏡でプレートにある動物の数と文字を読み取らせ、動物の数の順番に文字を読むと、「みんなともだち」となります。

【動物探し】  
7枚のプレートにそれぞれ動物を1〜7匹と、ひらがなの一文字を書き、コースの沢向かいの木に取り付けてあります。子供たちに、双眼鏡でプレートにある動物の数と文字を読み取らせ、動物の数の順番に文字を読むと、「みんなともだち」となります。

【動物探し】  
7枚のプレートにそれぞれ動物を1〜7匹と、ひらがなの一文字を書き、コースの沢向かいの木に取り付けてあります。子供たちに、双眼鏡でプレートにある動物の数と文字を読み取らせ、動物の数の順番に文字を読むと、「みんなともだち」となります。

【動物探し】  
7枚のプレートにそれぞれ動物を1〜7匹と、ひらがなの一文字を書き、コースの沢向かいの木に取り付けてあります。子供たちに、双眼鏡でプレートにある動物の数と文字を読み取らせ、動物の数の順番に文字を読むと、「みんなともだち」となります。



【フランク】  
気分はハイジよ～！

【遊びタイム】  
スタッフ手作りのブランコ、ターザンロープ、ハンモック、網のぼりを体験、そして自由に川遊びです。

【遊びタイム】  
スタッフ手作りのブランコ、ターザンロープ、ハンモック、網のぼりを体験、そして自由に川遊びです。

【木エクラフト】  
落ち葉で「とじこめーる」（はがき）を作り、父母あてに郵送します。また、枝を使った写真立てを作ります。

【のこぎり体験等】  
のこぎりを使ってコースターを作ったり、「ロケットラワン（ラワンのタネの模型）」を作ったり飛ばします。

【のこぎり体験等】  
のこぎりを使ってコースターを作ったり、「ロケットラワン（ラワンのタネの模型）」を作ったり飛ばします。

子供たちは暑さを忘れて時間いっぱい楽しんでいました。参加が2回目、3回目という子もいました。「来年は弟が一年生になるから一緒に参加する。」という声もありました。

子供たちは暑さを忘れて時間いっぱい楽しんでいました。参加が2回目、3回目という子もいました。「来年は弟が一年生になるから一緒に参加する。」という声もありました。

子供たちは暑さを忘れて時間いっぱい楽しんでいました。参加が2回目、3回目という子もいました。「来年は弟が一年生になるから一緒に参加する。」という声もありました。

子供たちは暑さを忘れて時間いっぱい楽しんでいました。参加が2回目、3回目という子もいました。「来年は弟が一年生になるから一緒に参加する。」という声もありました。

子供たちは暑さを忘れて時間いっぱい楽しんでいました。参加が2回目、3回目という子もいました。「来年は弟が一年生になるから一緒に参加する。」という声もありました。

子供たちは暑さを忘れて時間いっぱい楽しんでいました。参加が2回目、3回目という子もいました。「来年は弟が一年生になるから一緒に参加する。」という声もありました。

子供たちは暑さを忘れて時間いっぱい楽しんでいました。参加が2回目、3回目という子もいました。「来年は弟が一年生になるから一緒に参加する。」という声もありました。

# こんにちは 森林官です!

網走西部森林管理署 生田原第一森林事務所  
森林官  
(生田原第一担当区)  
工藤 勇太



ここにあって、北海道の四季を表現した壁一面の大壁画は圧巻で、光と影

ここにある、北海道の四季を表現した壁一面の大壁画は圧巻で、光と影

北を除く三方を山に囲まれた地形の遠軽町生田原は、平成17年の町村合併前から「木」と「文学」による町おこしを行っています。



八重牧場から望む  
生田原市街

網走西部森林管理署生田原第一森林事務所は、オホーツク総合振興局管内遠軽町生田原に所在しています。

そうした遠軽町生田原において、当事務所では約6千3百ヘクタールの国有林を管轄しており、その大部分は水源かん養保安林に指定され、流域



夢いっぱいのおもちゃと影絵の世界「ちゃちゃワールド」

また、JR生田原駅には旧樺太を含むオホーツク流水圏域を題材とした文学作品を展示収集しているオホーツク文学館が併設されているほか、ヤマベが多く生息する清流として知られている生田原川沿いの散歩道には道内外から募った短歌や俳句を記した石碑が並び歌句碑ロードがあります。

が描き出す影絵の息をのむような幻想的な世界があり、子供はもちろん、大人も童心にかえって楽しめる場所となっています。

林道の維持管理も重要な仕事の一つですが、本年8月の台風では多くの林道が決壊や路面洗掘等の被害を受けました。

林道は木材生産や森林管理を行う上での根幹であることから、速やかに修繕等を行う必要があります。現地でポールやメジャー等を用い被災規模の調査や対策の検討などを行い、時には深い沢を越えたり、1日に何キロも歩かなくてはならない

森林事務所の仕事は巡視のほか、下刈りや保育間伐などの請負監督や森林の現況調査など多岐に渡ります。



生田原川沿いに並び  
歌句碑ロード

に降った雨を土壌に蓄え、ゆっくりと川に流すことで安定した川の流れを保ち、洪水や濁水を緩和する役割を果たしています。

そのためにも、森林がもたらしてくれる豊かな自然の恵みを最大限発揮することができるよう「より良い山づくり」に向けて自己研鑽し、どのように発信できるか考え、先人たちが大切に育んできた森林を後世に引き継ぐべく、多くの方々のご協力をいただきながら業務に努めて参りたいと思



林道被害調査の様子

ことなど、大変な部分もありますが、迅速に報告することも大切な仕事の一つです。

森林事務所の勤務経験は2年目ですが、森林官として日々の業務を行う中で、森林をどのように管理しているかを多くの方に知っていただくことも大切な使命だと感じています。

# 各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

## JICA研修

### 【知床森林生態系 保全センター】

9月23日、24日の2日間にわたり、JICA研修生のみなさんが当センターを訪れました。

アフリカ、アジア、オセアニアの様々な国を代表して、森林管理の第一線で働いている方々が、「地域住民の参加による持続的な森林管理」について学ぶ研修の一環です。研修では、当センター職員による知床世界自然遺産の概要、河川工作物（ダム等）の改良、国有林のエゾシカ被害対策の紹介や、環境省、北海道、斜里町、知床財団の方も交えて、各機関の紹介をした後にディスカッション（対話集会）を行いました。

研修生のみなさんからは、ヒグマが人里に現れてしまうのはなぜかといった質問や、魚類が遡上できるダムや世界自然遺産登録について助言がほしいなど、多くの反応が

ありました。

当センターを含めた地域関係者もそれぞれの立場から回答し、活発な議論が行われました。



各機関とのディスカッションの様子

我々にとっても各国の森林管理について知ることができたのと同時に、知床の森林は様々な人が関わって協力しながら管理されていることを改めて感じ、非常に有意義な時間となりました。

### 【北海道森林管理局】

#### 道民森づくりネットワーク ワークの集い2016

9月22日、野幌森林公園（北海道開拓の村及び自然ふれあい交流センター）において「道民森づくりネットワークの集い2016」を開催しました。

北海道森林管理局では、北海道、(社)北海道森と緑の会との共催により、年間を通じて「緑の募金」の出発式、植樹祭などの様々なイベントを「北海道森づくりフェスタ」として実施しています。

今回のイベントは主催者に道民森づくりネットワークの集い実行委員会が加わり、(財)北海道歴史文化財団、酪農学園大学、札幌市、江別市の協力のもと開催し、2,300名以上の方にお越しいただきました。



野幌森林公園会場

### 「チバベリふれあいの森」でトングリ作戦

#### 【留萌南部森林管理署】

9月16日、留萌市内幌糠国有林の「チバベリふれあいの森」において、



カミネッコンにミズナラ苗を移植

留萌ライオンズクラブ主催による森林教室を行いました。留萌市内の潮静小学校の児童・先生などあわせて22名が参加し、当署職員がサポートにあたりました。

「トングリ作戦」と名付けて、木を植える大切さを知ってもらうため、カミネッコンによるミズナラの植樹をメインに実施しました。

児童代表から「今日はたくさんの人と植樹体験できてうれしかった。感謝の言葉でいっぱいです」と感想とお礼の言葉をもらい、秋風が心地よく小鳥がさえずる中、さわやかで気持ちのいい汗をかきながら森林への関心を深めるのにふさわしい一日となりました。

北のしじみの森林づくり

【留萌北部森林管理署】

9月3日、天塩町内川口地区国有林において「北のしじみの森林づくり」を開催しました。

当署では、平成17年より「北のしじみの森林づくり」として天塩小学校の3年生とともに防風林内の未立木地に植樹を行ってきました。



木製フェンスの組み立て

イベントは、カシワナラの苗木のカミネッコン作成

や強風から苗木を守るための木製のフェンスを組み立て、木の枝を使った笛作りなどを行いました。

最後にアンケートを行い、「来年も開催してほしい」といった意見が多く、本イベントが天塩町民と協働の防風林づくり発展の一助となったと考えています。

誘導伐・コンテナ苗植栽に係る現地検討会を開催

【留萌南部森林管理署】

9月6日、小平町内達布国有林において、低コスト造林を通じて地域林業の活性化と民有林支援を図る取組として、誘導伐・コンテナ苗にかかる現地検討会を開催しました。

検討会には、留萌振興局、管内市町村、林業事業者、地元林業関係者など、総勢98名が参加しました。

コンテナ苗の器具別植栽体験を交えながら、低密度植栽で3種類のha当たり植栽本数の箇所を比較しながら見てもらいました。

参加者からは、「地拵時の末木枝条・伐根の処理方法」や「大型機械地拵での仕様の選定」について質問があり、大型機械地拵の軽労化を図るうえでの課題も出されていました。



器具を使ったコンテナ苗の植栽

当署では今回出された意見を今後の取組に生かすとともに、経過観察及び生長調査を行い、その結果を情報提供しながら造林低コスト化の民有林支援につなげていきたいと思っています。



現地検討会の様子

北海道森林管理局は、広大で大変豊かな森林を国民共通の財産として、世代を超えたさまざまなニーズに答えられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命としております。

北海道森林管理局のホームページ内では、「公売・入札情報」「知床世界自然遺産」「エゾシカ対策」「森もり！スクエア」イベント情報」等の各サイト内において北海道国有林の情報をお届けしております。



北海道での台風等による自然災害について

この度の北海道での大雨や台風の影響により、道内各地では、甚大な被害に見舞われました。

被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

北海道森林管理局では、関係機関と連携し、森林や林道等の復旧に全力で努めて参ります。

広報 「北の森林 国有林」10月号  
 発行 北海道森林管理局  
 編集 総務企画部 企画課  
 〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70  
 I P 電話 050-3160-6300  
 電 話 011-622-5213  
 F A X 011-622-5194